

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000433		
法人名	医療法人 英生会		
事業所名	英生会 グループホームゆめみの 1階たんぼぼ		
所在地	江別市ゆめみ野東町33番10		
自己評価作成日	平成30年6月20日	評価結果市町村受理日	平成30年8月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0171000433-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成30年7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○地域の方々を行事等に招いたり、地域で行われている行事や催し物に参加する等、地域との関わりを多く持てるよう援助している。</p> <p>○介護理念10カ条のうち毎月1つの項目に重点を置き、御本人様が今までの人生を大切に、いつまでも尊重され自分らしさが発揮できるようチーム全体で取り組んでいる。</p> <p>○御家族様との関わりを通し、個人個人の思いや希望に添えるよう個別支援の充実に努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>江別市の東部に位置する閑静な新興住宅地にある2階建て2ユニットの事業所で、住宅地の先は農地が続いており、自然に恵まれた大らかな雰囲気である。小規模多機能型居宅介護事業所が併設されていて、利用者同士趣味や行事を通じて馴染みの関係を作ることが出来、職員も同じ関わりを持つことにより、お互いに連携を密にし事例を共有しながら質の向上に取り組んでいる。1階と2階の交流も職員の声掛け、見守り支援の下に楽しく行われている。自治会に加入し、花壇整備や地域の祭りなどの自治会行事へ利用者と一緒に参加して交流し、小学校の運動会、学習発表会を見学したり、地域住民が事業所の祭りなどに参加して交流している。又、避難訓練に地域住民の協力を得るなど地域との関係は良好である。医療法人が運営母体であることから、利用者の病気発症時の対応もスムーズに行われており、定期的な往診や看護師の配置など体制が充実していて、利用者、家族の安心に繋がっている。災害時は避難先として本部を登録しており避難及びその後の支援についても安心である。職員の通勤、家族の訪問などに利用できるバスの運行(1時間に1本)を行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議の際、全員で理念を読み上げ確認している。又、理念を名札に入れ携帯し、常に意識するよう心掛けている。事業所独自の理念を基に、ユニット会議等で話し合い、再確認している。	法人の理念、事業所の理念、基本方針をネームケースに入れて、いつでも確認できるようにしている。ユニット会議で理念、基本方針を確認して共有するとともに介護理念10か条の一項を月間目標として取り組み支援の質向上につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行っている夏祭り、避難訓練や自治会主催の行事に参加し、近隣の方と御利用者様が直接触れ合う機会を設けている。又、散歩や買い物に出掛けた時は、挨拶を交わし、話をしている。	自治会に加入し、自治会のお祭りなどには利用者と一緒に参加して交流している。小学校の運動会や学習発表会などの案内もあり、見学に出かけている。事業所のお祭りの時には地域の方々の参加・協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花壇整備や夏祭り等の町内会で行われている行事、中学校への雑巾寄贈、避難訓練やAED講習など、地域の方々と積極的に交流の機会を設け、認知症の方の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、運営推進会議には町内会役員の方や御家族様、地域包括支援センター職員に参加頂いている。稼働実績やグループホームの実情を報告し、認知症の方への理解に努めている。日々の取り組み、行事や委員会の報告も行い、質疑応答の場を設け意見を頂きサービスの向上に活かしている。又、参加が難しい御家族様には面会時に意見等を伺い、会議の日時・内容を検討している。	2か月に1回開催し、自治会役員、地域包括支援センター職員、有識者、家族などが参加し、運営状況などを報告して意見や助言を得てサービス向上に活かしている。会議録を参加者のほか職員、家族に報告している。年間のテーマを年度当初に話し合っ設定している。(サービス評価・災害対策・行事など)運営会議で職員同士の課題・目標の共有を行い利用者への支援向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアプラン等について解らない事や、より深く知りたいこと等、市役所に伺い相談や確認を行っている。また地域包括支援センターの方へ運営推進会議において、実情報告をし、意見を伺っている。	市担当者とは事務処理、利用者の対応など電話で相談できる関係にある。必要に応じ出向いて相談、指導、助言を得ている。防災対策の研修を市危機対策室で受けるなど相談しやすい関係にある。運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し情報提供、助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠をせず、誰もが自由に出入りできるようにしている。夜間は安全・防犯の為に玄関に施錠をしている。月1回身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を毎月1回開催し、何が拘束となるかマニュアルを作成し外部研修や報告会で話し合っ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、職員に対して年2回声掛けや拘束についてのアンケート調査を行いケアの実践に取り組んでいる。玄関は日中施錠をせず利用者を見かけたら声をかけて意向を聞き一緒に出かけるなど支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心に、外部研修や法人で行う研修に参加している。修得した知識をユニット会議で活用し、全職員が学び、意識するようになっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括主催の成年後見制度の研修に参加している。学んだ事をユニット会議等で報告し、職員の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、御本人様や御家族様に見学して頂き、事例を含めた判り易い説明を心掛け、理解を得られるよう努めている。契約時も同様に行い、質問にも丁寧に回答している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で現状報告をし、意見交換の場を設け、御本人様や御家族様に意見、要望を頂き運営の参考に行っている。年2回アンケートを実施し、御家族様や来訪者等に意見を伺う機会を設けている。	日常の会話、表情などから利用者の意見、要望を把握し、家族等とは、家族対象のアンケートを年2回行い、来訪時には近況を報告し、運営推進会議参加時に意見、要望を聞いている。又、事業所に来所する商店の方やボランティアの方などにも職員の状況などのアンケートを依頼し、運営・支援に反映している。家族の来訪も多い。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、年1回の事業所統括との個人面談で、職員の意見や要望・提案等を聞く機会を設けている。	毎月のユニット会議や各委員会や業務を通じて職員の意見や悩みなど管理者は広く聞くように心掛けている。年1回法人統括の個人面談を行い意見を聞いている。職員も勤務年数の長い人が多く、働きやすい職場である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1度、「ストレスに関するアンケート調査」を行い、職員一人一人の疲労、ストレスの要因に気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修会には、パートの職員も含め、なるべく全職員が受講できるようにしている。研修に参加した際は、月に1度のユニット会議で発表してもらい、報告書はいつでも閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に管理者が集まる連絡会(あおいの会)があり参加している。連絡会では相互の活動内容、情報交換、意見交換、事例検討を通して職場内での行き詰っている悩みの解消など事業所以外の人材の意見や経験を、日々のケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様の生活状況を詳しく把握出来る様、アセスメント・生活情報シートを使用し、御家族様にも記入して頂いている。また御本人様が生活する上での不安事等を伺い、安心を確保する為の情報共有と関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から御利用に至るまでに御家族様が困っている事、不安に思っている事、要望等を十分に話し合い安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画書の初期計画を立てる前に、御本人様の状態や気持ちの面において必要な支援を多方面から考え、提案し、進めていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や食器拭き、洗濯物たたみ等、御利用者様同士で協力し合える場面をできるだけ多く作り、繋がりを築けるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様面会の時には、御本人様の近況を報告し、一緒に支援の方法を考え、共に御本人様を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人様の意向を大切に、馴染みの方からの手紙や電話をいつでも取りつぐ事ができるようにしている。また、地域の行事に参加したり、御友人の方等が来訪しやすい雰囲気作りに努めている。	家族の来訪はかなりあり、家族との外出もある。利用者個々の希望に応じて寿司屋、温泉、買い物などに職員が同行して馴染みの関係が途切れないよう支援している。電話や手紙は利用者の希望どうり支援している。理容・美容については月2回の来訪を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の関係性について情報を共有し、談話の時は職員も一緒に入り、懐かしい話や楽しめる話しができるように会話を広げ、一人ひとりが主役となれるよう支援している。御利用者様同士の関係を大切に、介入せずに見守る支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて退去された方へのお見舞いに伺わせて頂いている。その際に、御本人様や御家族様の相談に応じ、対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しやすい雰囲気や日常的に心掛け、言葉や表情を観察し、真意を汲みとっている。意思疎通が困難な方には御家族様や御友人等から情報を頂き、御本人様にとってどのように暮らす事が最良なのか検討している。	日々の会話、表情、家族の情報から思いや意向の把握に努め、職員で共有して、希望や意向に添うように努めている。家族来訪時に利用者の話を聞いて適切な意向把握の一助としている。食事の時、買い物、道中、入浴時などの何気ない会話から意向を把握することが多い。家族との密な連絡で相互の信頼関係を築くようにしているが、もたれ合い・馴合いにならないように注意を払っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様、御家族様や御友人の方等からこれまでの生活歴を伺い、出来る限り今までと同様の暮らしが継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの希望する生活、長年の日課や大切にしている習慣、必要な過ごし方、残存機能の活用について日々カンファレンスを行い、御本人様らしい生活が送れるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様や御家族様から希望を伺い、職員、介護支援専門員で必要な支援内容を検討している。また、必要に応じて看護師や医師の意見を聞き、介護計画に生かしている。	利用者、家族の意向を反映させ、担当職員、介護支援専門員、医師等関係者と話し合い3ヶ月毎に現状に即した介護計画を作成し、家族の確認を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録ファイルの御本人様が言ったその言葉をそのまま記載する、日々の生活や体調面を、そう言った背景や根拠も合わせて記載し、申し送り等も含め職員間で情報を共有している。介護計画の見直しにも必要な情報となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様より、散歩や買い物、外食等の希望があった時はもちろんの事、希望として伝えられない方の気持ちの汲みとりを行い、希望に応じられるよう努めている。また、御家族様の状況に応じて、他院への通院介助も行い、希望に添えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方(傾聴・歌)に来て頂き、外部からの刺激を受けたり、楽しんで頂けるような環境作りに努めている。また、地域のお祭りに参加したり、当事業所のお祭りに地域の方々を招いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、かかりつけ医による在宅診療や通院介助を行っている。必要に応じて他科受診の支援もしている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるように支援している。母体の医療法人の医師(内科・整形外科)が月2回定期的に往診。他診療科については家族の同伴による通院、職員も同伴して受診をしている。利用者の日常の状況についての把握は職員であり、「個々人の医療ファイル」を備えていることから急な時にも対応ができています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師による健康相談にて、御本人様の状態や職員の気づき、相談事を伝え指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時にはお見舞いに伺わせて頂き、御本人様の状態を確認し、病棟看護師にも状態を聞いている。入院先が同法人の病院であれば、週一回の健康相談で看護師長に御本人様の最新の情報を聞いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様の気持ちを大切に、御家族様と話し合い、契約時に事業所の重度化及び看取りに関する指針等を説明し、グループホームでの看取りか、医療機関での看取り、どちらを希望されるか意向を確認している。又、御本人様・御家族様の状況変化を踏まえ1年毎に話し合い、安心して終末期を過ごして頂けるよう取り組んでいる。	契約時に「重度化対応指針」「看取りの指針」について本人、家族に説明し同意、確認を得ている。重度化した場合は、家族・医師・関係職員とで対応を話合って決定する。終末期にはその都度利用者・家族の意向確認を行う。今までは本部医療法人の病院に入院しており、事業所での看取りは行われた事は無いが、職員は外部研修等で看取りについて学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、緊急時や事故発生時には日中・夜間共に、いつでも対応できるように職員に周知している。AEDを設置しており、年1回使用方法の訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した避難訓練を消防署員立ち合いの下行っている。また、近隣の住民や町内会にも回覧板で事前に連絡し、訓練に参加して頂いている。災害備蓄品も整備し、災害に備えている。	消防署の指導を得て年2回夜間想定避難訓練を実施している。自治会では回覧で避難訓練を周知し、町内の方の参加もある。事業所内に災害時連絡網を設置しており、消防署には連絡が行くようにしている。指定の避難所に避難したが使用が困難なため本部施設に変更した。	・災害発生時には地域の支援が必要となるため、町内会役員等へ緊急連絡が出来るよう、災害時連絡網に町内会役員等を加えることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	かけがえのない一人の人間として、尊厳を持ち、敬意を払って接している。	職員は人格尊重の理念をよく理解し、自然体で利用者と接している。名前の呼び方なども本人の希望に沿って行っている。生活のリズムについても極力本人の活動を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日着る服や、外食等で食べたい物を選ぶ事はもちろんの事、御本人様のその時々に行いたい事ができるように支援している。表情やしぐさに目を向け、言葉にならない思いも汲みとることができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間、食事時間等、一人ひとりのその時の気持ちや体調、気分を尊重している。それぞれの日課を大切に、御本人様の意向を第一に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時は、御本人様で選ぶことができるよう声掛けを工夫しており、今までのその方らしい装いや身だしなみが保てるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様と一緒に献立を考えたり、旬の野菜や魚などを取り入れるようにしている。御利用者様と職員が同じテーブルを囲み楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。	献立は法人管理栄養士の指導の下、職員が当番制で作っている。利用者の希望でメニューが変わることもあり、食材の買い出しに行くこともある。食事の時は職員も同席し雑談を交わしながら食事を楽しんでいる。食後の後片付けなど利用者のできることはさりげなく見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量をチェック表に記載し、御本人様の状態を把握している。食事の形態、食器の大きさなど一人ひとりに合わせている。年1回の衛生点検で管理栄養士の専門的なアドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛け、または口腔ケアを行っている。必要に応じて自尊心を傷つけない声掛けをし、仕上げ磨きを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。羞恥心に配慮し、残存機能が保てる排泄支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、表情、態度などから適時にさりげなく、トイレに誘導し、排泄の自立に努めている。オムツ使用者は1名であり、夜間のみリハビリパンツやパッドを利用している人が殆どである。1ユニットに3か所のトイレがあり1か所は、浴室と隣接している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ、水分補給には繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。体操や運動で身体を動かす機会を設け、医師に相談の下、内服薬の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めず、一人ひとりの健康状態、外出、面会状況、気分等に合わせ、週2回以上の入浴を実施している。又、希望がある際は入浴して頂けるよう支援している。	曜日は決めず、週に2～3回の入浴を支援している。午後から1日3～4人入浴する。嫌がる人には声掛け方法などを考えて促している。入浴の時には利用者の思い出話や楽しみなことなどを聞きながら入浴が楽しんでもらえるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状態、活動状況、生活スタイルを把握し、適度に休息が取れるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作成し、一人ひとりの服薬内容を把握している。薬の変更や臨時薬時には症状の変化がないかどうかの観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を踏まえ、家事や趣味活動(園芸、裁縫、読書等)が継続して行える様環境を整えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩や買い物へ誘い外出している。御本人様の習慣、希望などその時々状況に合わせ、お花見や紅葉狩り等、四季を感じる事ができるようにしている。	散歩を希望する利用者には職員が同行し、事業所前の花壇や野菜畑の草取り、収穫を楽しんでいる。食材購入に出かけて知友人との出会いを楽しむこともある。利用者の外出希望時は職員が同行支援をしている。家族との外出も支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様がお金を手元に持つ事を希望されている時は、所持できるよう配慮している。買い物時、品物を購入される方で、支払いができる方には御自分で支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様や御友人などに電話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。御本人様の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の家具や物品の配置は、個々の利用者様が居心地のよい安心感のある場所となるよう工夫し設置している。又、季節毎に装飾を変え居心地よく過ごせるようにしている。	居間の大きな窓から畑や花壇が見える。午後3時のおやつの時間に始まる「大岡越前」などドラマを楽しみに思い思いの場に座ってテレビを見ながら交流している。居間に面して食堂があり調理の音や匂いが家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し、好きな時に1人になれる空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、御家族様と相談し、使い慣れた家具や馴染みの物を継続して使用できるよう持って来て頂き、居心地よく過ごして頂ける様にしている。	利用者一人ひとりの使い慣れた家具を置き、冷蔵庫をおいている部屋もある。家族の写真を飾ったり、自分で作った作品を飾るなどその人らしい部屋になっている。室内は整理されており、職員はさり気なく見守っている。夜間は当直が1名のため玄関は施錠する。ベッド足元にセンサーを設置する。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を見て分かりやすいように工夫したり、居室内の家具の配置は、自宅で過ごされていた時の位置を参考にし、混乱を最小限に抑える工夫等をしている。		